



横浜市立太尾小学校

# 学校だより

< 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 >

令和2年度6月号

令和2年6月1日発行

## ワクワクする毎日が” 日常 “をつくりだす

校長 館 雅之

4月に入学式、始業式を行った後に、臨時休校が2か月続きました。長期間にわたり、しかも、先行きが見えない休みでしたので、どのように家で過ごしたらよいのか、とても悩んだことと思います。また、保護者の皆様もお子さんの家での過ごし方や学習について、大変ご苦勞をされたことと思います。

学校では、再開のための準備を進めていますが、感染拡大予防に努め、「密」をつくらないように職員も自宅勤務をしたり、一同に集まる時間や場所を限定したり試行錯誤の日々でした。その中で今までやっていたこと、やっていた方法を見つめ直すことが求められてきました。

「新しい日常」の例が示されましたが、改めて「日常」について考えてみました。今まで「日常」とは普段とかわらないもの、あまりワクワクしないものと私はとらえていました。しかし、今回改めて考え直し、「日常」とは毎日を充実させること、そして、それは素敵な未来をつくることにつながる。だからこそ、普通のことであっても、その普通の日常を大切に思うことが重要だという考えに至りました。

今日から分散登校が始まり、徐々に学校の「日常」が戻ってきました。「おはようございます」「さようなら」という子どもの声が聞こえてくる学校がこんなにもワクワクするのが不思議です。このような毎日を充実させることが「新しい日常」につながっていくのだと考えます。

さて、「三密」「ソーシャルディスタンス」など新たな言葉を耳にするようになりました。私は当初、このような取組は人と人を離すような印象を受け、何かそれでよいのか考えてしまうことがありました。

しかし、今は違う考えをもっています。人と人を離すことは現象であり、それが意味することは「より相手のことを思うこと」である。相手との適切な距離を考えること、これは単に2m離れるということだけでなく、心と心の適切な距離も含んでいるととらえました。「新しい日常」は、今まで以上に相手のことを思う、大切にすることが求められる日々であると考えてはどうでしょうか。

6月の前半(第一期)の二週間は分散登校で一度に集まる子どもの数を1/4から始めることにしました。教職員が一人ひとりの子どもとより丁寧に関わられるように、また、感染拡大予防も今できる最大限のことができるように計画しました。後半(第二期)の二週間は午前授業で全員が登校します。学校生活における「新しい日常」をみんなで探り、確かめながら丁寧に進めてまいります。

学校は子どもにとってワクワクするところです。新型コロナウイルス感染症はまだわからないことが多くあり不安もありますが、出口のないトンネルはないというのが私の考えです。手探り、試行錯誤のこともあります。お子さんがワクワクして来る毎日が積み重ねられるように取り組んでまいります。

6月は模索の時期になるかもしれませんが、どうぞよろしく願いいたします。

お子さんの毎日の健康観察をよろしく願いいたします。

